

医療法人社団俊和会
寺田病院
(東京都足立区)

胃腸・肛門の専門医療を核に
地域のランドマークとなる病院をめざす

胃腸・肛門疾患の治療を得意とする寺田病院(45床)は、2013年7月、日暮里・舎人ライナー副大橋駅前新築移転した。新病院ではこれまで培ってきた、胃腸・肛門の専門医療の機能をより強化させたほか、泌尿器科、婦人科を新設。専門性を活かしつつ、地域に開かれた病院として、住民の健康を支える。

写真=山口昭記



広々とした1階待合スペースには毎日多くの患者が訪れる



落ち着いた色調の特別室



「これまで以上にしっかりと、地域住民に身近な病院にしていきたい」と話す寺田俊明理事長

→従来1室だった手術室は、新病院では3室設けた



↑最大14床、内視鏡手術後の患者が休めるスペースを確保



↑内視鏡検査の様子



廊下が移動するバックヤードは患者が居る場所と完全にエリアを分け、連絡をスムーズにした



1号室提供する可能性も視野に入れ、1床当たりの面積や地下幅はゆとりとした作り

病院DATA
医療法人社団俊和会 寺田病院
東京都足立区豊1-20-12
TEL: 03-3888-2031
URL: <http://www.terada-hp.org/>
病床数: 45床



→胃・大腸肛門センターに設けた女性専用の待合室。中には更衣スペースや洗面台、トイレなどが備わっている



↑新たに設けた喫茶スペース。待ち時間に利用でき、患者に好評



↑エントランスには病院内を導く医師の専門が一覧になっている



→「病院を地域のランドマークにした」と、外景には指針からよく見える大きな時計を設置しました(寺田理事長)

住宅地から便利な駅前に移転
より広く専門医療を提供できるように

医療法人社団俊和会寺田病院(東京都足立区)は、胃腸・肛門の専門医療を強みとする45床の病院だ。築33年の旧病院の老朽化や、患者の増加による手狭さから、2013年7月に新築移転した。

移転地は、日暮里・舎人ライナー副大橋駅前で、副大橋の住宅街のなかにあった旧病院からは徒歩20分ほどの距離。

「当院にはこれまでもある程度広いエリアから来院がありました。より多くの人に当院の専門医療を利用してもらうため、移転地の選定にあたりアクセスのよさは条件の1つでした」と、寺田俊明理事長は振り返る。

長年地域に密着して地域住民の健康を支えてきた顔面もあり、同院をかかりつけとする地域の患者も多かった。旧病院の近くで用地を探し、これまでも最寄り駅だった副大橋駅前の現在地に決めた。

胃腸・肛門系の専門医療機能の拡充に力を入れた新病院では、3階フロア全体を「胃・大腸肛門センター」とし、内視鏡室を従来の2室から4室に増やした。鎮静剤を使用する内視鏡検査後に薬の作用が消えるまで患者が休むリカバリールームは、旧病院では4床だったが、最大14床まで拡大。内視鏡検査は1人10分ほどですむ。リカバリールームを広くとることで、このスペースが空くのを待って内視鏡の検査を止め

るといったことがなくなり、効率性が上がった。また、「多くの女性にとって大腸や肛門の疾患での受診は抵抗がある(寺田理事長)ことから、新病院の胃・大腸肛門センターでは待合室を男女別に設けた。女性の患者も目を気にせず受診できるよう、配慮したつもりとなっている。

地域住民に貢献したいの思いから、専門性を活かした健康教室の開催も
新病院では泌尿器科、婦人科を新設。下腹部に症状がある患者で、腸疾患でない場合に、これまででは診断がつかないまま他の病院へ患者を紹介していた。新病院ではこれらの疾患の検査・診断が行えるようになり、より早く患者を適切な治療へと結びつけられるようになった。

今後は、病院を地域コミュニティの場としても活かしていく方針だ。現在、職員の会議などに使用している7階は、小部屋を仕切るパーティションをとれば、一続きの大きな部屋になる。「地域住民を招き、特などをテーマにした健康教室を開きたいと考えています(寺田理事長)」。鉄道でのアクセスがよくなったこともあってか、移転後2カ月の時点で来院患者数は約1.5倍に増加した。

「現在のところ内視鏡室は2室が稼働中です。今年中に拡充した病院の設備をフル稼働させることを目標に、スタッフの増員および専門医療の提供体制構築を進めています。長期的には当院の誇る専門性を後進の指導にも活かしていきたいと考えています」と寺田理事長は語る。